

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2012 年 1-6 月期〕

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

東日本大震災（以下、震災）から 1 年が経過する中で、震災により落ち込んだ生産活動は徐々に回復しつつあり、一部に復興需要もみられ、業況は持ち直しの動きが見られるものの、全体を押し上げるほどの回復力はなく、踊り場局面が続く。

- 2012 年 1-6 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 47%、「好転」とした企業は 4%で、ともに前回調査（2011 年 7-12 月期）と同水準で推移し、景況判断 DI は▲43 となり、前回調査と同水準にとどまった。

以下、その他業況感 DI の内訳

- ・売上高 DI は▲25 で、2011 年 7-12 月期から 3 ポイント悪化。
 - ・処理量 DI は▲24 で、2011 年 7-12 月期から 3 ポイント悪化。
 - ・契約単価 DI は▲18 で、2011 年 7-12 月期から 1 ポイント悪化。
 - ・営業利益 DI は▲22 で、2011 年 7-12 月期と 5 ポイント改善。
 - ・資金繰り DI は▲6 で、2011 年 7-12 月期から 4 ポイント改善。
 - ・借入難易度 DI は 5 で、2011 年 7-12 月期から 8 ポイント改善。
 - ・設備投資 DI は▲16 で、2011 年 7-12 月期から 2 ポイント改善。
 - ・従業員数 DI は▲3 で、2011 年 7-12 月期から 2 ポイント改善。
- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲43 となり、同水準で推移する見込みとなっている。
 - 売上高の動向については、2012 年 1-3 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）3.1%増、2012 年 4-6 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）2.7%減となった。
 - 処理量の動向については、2012 年 1-3 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）3.9%減、2012 年 4-6 月期で前年同期比（3 ヶ月平均）5.2%減となった。
 - 経常利益率については、平均値が 4.91%（前回調査 4.97%）となった。回答割合は「5%未満」37.8%、「5-10%未満」14.9%、「10%以上」13.8%となった。
 - 経営上の問題点については、1 位の「需要の停滞」、2 位の「同業者相互の価格競争の激化」、3 位の「顧客先からの値下げ要請」、4 位の「取引先の減少」合わせて、7 割弱と高い割合となっている。

※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

〔調査の要領〕

- 調査の対象：前回の調査（2008 年 10-12 月期）で回答のあった全国の協会会員企業
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 24 年 7 月 5 日～8 月 31 日
- 回答企業数：489 社

